



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 326

令和4年8月29日(月)発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141

<http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~misho/>

くるたの 苦楽しい体験で心からの喜びを

校長 後藤 正美

「自分磨きの夏休み」を終え、元気に学び舎へ戻ってきた子どもたちの姿は、何よりの喜びです。

教室には、子どもたちを迎える担任のメッセージや2学期の目標が書かれています。2学期は、子どもたちの「成長チャンス」の宝庫です。様々な行事や、学習が最も充実する時期だからです。きっと、得意なことで活躍したり、苦手なことで悩みながら努力したりする姿が見られることでしょう。友人関係で、成長段階に応じたかわり合いを学ぶのもこの時期です。

タイトルに書いた「苦楽しい」とは、作家の遠藤周作さんが対談で用いた言葉です。子どもたちの行動の原動力は、確かに「楽しさ」です。楽しさを基にやる気を伸ばすことが何よりも大切なのは、言うまでもありません。しかしながら、苦しみの先にある充実感を体験することも、小学生の貴重な学びとなります。

詩人で書家である相田みつをさんが、詩集『にんげんだもの』の中で、「ラクしてカッコよければしあわせかー負ける練習ー」という以下の文章を残しています。時代は大きく変わりましたが、現在でも大切にしたい部分があるのではないのでしょうか。

現代っ子にとって一番弱いところはどこか？
負けに耐える心、恥に堪える心、カッコ悪さに堪える心です。負けるということは自分の思いが通らぬことです。(中略)長い人生には自分の思いが通らぬ場合がたくさんあります。思うようにならぬほうがはるかに多いのが人生です。思うようにならぬーそれはことばを代えれば負けることです。
小さいときから負ける練習をさせておけば、成人してから負けに強い人間になれます。失敗してもへこたれないたくましい人間になれるはずです。人生におけるどんな波風にも堪えてまっすぐに自分の道を歩いてゆけるような、しっかりしたいのちの根」を作っておいてやる。それが本当の愛情だと思えます。

2学期は「成長チャンス」と書きました。苦楽しい体験を通し、「へこたれない力」を身に付ける絶好の機会でもあります。子どもたちが悩んでいるときこそ、未来への「心の根っこ」をつくるためにどうしたらよいのか、共に考えて参りましょう。

2学期も皆様のお力添えをお願いいたします。